1960年創立
国際ロータリー　第2510地区 日本　The Rotary Club of Otaru South. District No.2510
通巻 第2621号
12
2013年9月27日(金)発行

小樽南ロータリークラブ会報

ホームページ　http://rid2510.org/otarusouth/
昭和35年2月5日　●例会場/ニュー三幸　●例会日/毎週金曜日12時30分　●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂1-3-6 ☎0134-33-3500

●2013-2014年度　Rotary International テーマ

Engage Rotary Change Lives

「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」

ロン D. バートンRI会長

強調事項　RI第2510地区　安孫子 建 雄 ガバナー（江別RC）

●ロータリーの基本を見つめ 変革するロータリーを実践しよう
●「RIテーマ<ロータリーを実践し みんな豊かな人生を>の理解を深めクラブと地域そして世界で活躍するロータリアンになろう」

●今週 9月27日(金) のプログラム
◎「日本を取り巻く海の情勢」
第一管区海上保安本部本部長　村上　玉樹氏

●来週10月5日(土) のプログラム
◎小樽RC創立80周年記念式典・祝賀会
16:00 ～記念式典登録開始 16:30 点鐘
場所 グランドパーク小樽

●再来週10月11日(金) のプログラム
◎臨時総会（次期役員指名委員会）
◎夜間例会報告
「地域に伝えたい小樽南ロータリークラブの魅力」
B卓：廣瀬会員　C卓：湊会員　D卓：大渕会員　F卓：山田(正)会員

●第11回例会報告　9月20日(金)　「在りし日のオタモイ遊園地」

■ロータリーソング■　「日も風も星も」

■ビジター・ゲストの紹介■

小樽市総合博物館副館長・学芸員　石川　直章 様
小樽市総合博物館指導員　山本　侑奈 様
志比川　武 氏（蘭越RC）

■ご挨拶■　志比川　武氏（蘭越RC）

・今年度はじめて小樽南RCさんにメーキャップさせていただきました。次年度2510地区ガバナー補佐を拝命いたしました。見延前ガバナー補佐のようには出来るとは思いませんが、皆様方に教えていただきながら職を全うしたいと存じますので今後共宜しくお願い申し上げます。

■会長報告■　吹越会長

・今日から彼岸の入りとなり暑さ寒さも彼岸までと申しますが、先日の台風18号では甚大な被害を受け被災に遭われた方々には深くお見舞を申し上げます。台風一過旭岳では初冠雪を観測されました。会員皆様方にはこの季節の変わり目体調には充分留意されご自愛のほど祈念申し上げます。
・先週の夜間例会「地域に伝えたい我がクラブの魅力」と云うことで炉辺会風の例会を楽しく過ごさせていただきましたが、10月には４名の会員に各テーブルで語られた当クラブの魅力についての「卓話」を例会プログラムとして計画しており、楽しみにしております。
・当クラブの出席率90％代を辛うじて確保しておりますが、会員皆様の出席・メーキャップを宜しくお願い致します。
・出席規定の免除希望者　山谷憲太郎会員の出席摘要免除者として理事会に於いて承認受理されました。
・後10日程で「新世代のための月間」が終わりますが、先日の村越新世代奉仕委員長の「この道は、いつか来た道？」の卓話は「秘密保全法案」が臨時国会に提出される予定の中興味深く拝聴いたしました。

■幹事報告■　吹越会長より

・例会変更のお知らせ
小樽クラブ
10/01(火)小樽市立美術館　点鐘12:30　10/08(火)を
10/05(土)に振替　グランドパーク小樽　点鐘　16:30
10/22(火)　休会
岩内クラブ
9/26(木)　厚生園　点鐘　12:30

■委員会・同好会報告■

◎社会奉仕委員会　坂口会員

・本日午前９時30分より小樽駅前にて「秋の全国交通安全運動・セーフティコールおたる」交通安全一斉街頭啓発に、吹越会長・宮川副会長・廣瀬会員・板垣会員・東会員　６名で参加して参りました。

◎会　計　佐藤(友)会員
・今週・来週の例会にて、10月20日開催の「地区大会」参加費の徴収を正武家事務局員と私とで各テーブルを廻らさせていただきますご協力のほどお願い申し上げます。

◎ゴルフ同好会　宮川会員
・第４回ゴルフ同好会成績表は会報に掲載しております。特筆すべきは、佐藤友美会員が見事７位入賞されました。日頃の特訓の成果の現れと思います。

◎例会運営委員会　東副委員長（雑誌・会報担当）
・会報11号社会奉仕委員会報告記事の中、おはぎパック10パック→100パック　ご訂正のほど宜しくお願いいたします。

■出席委員会■

・平成25年９月20日

会員総数	69名	本日の欠席者	13名

荒木、石上、角野、工藤、永原、柴田、前川、坪井、髙木(成)、野村、本間(清)、鈴木、米山

・平成25年９月６日

会員総数	69名	出席摘要免除者数	16名
病欠者	０名	出席計算員数	名
ホーム欠席者数	10名	メーキャップ数	４名
純欠席者数	０名	確定出席率	84.37％

■メーキャップ■

山村（委員会）柴田(小樽RC)
本間(清)、佐藤(友)(委員会)

在りし日のオタモイ遊園地

小樽市総合博物館　指導員　山本　侑奈　様
副館長学芸員　石川　直章　様

オタモイ遊園地は、皆さんよくご存知の通り、オタモイにかつてあった観光名所です。営業開始の詳しい年月日ははっきりわかりませんが、昭和10年か11年ごろから営業を開始していたようです。

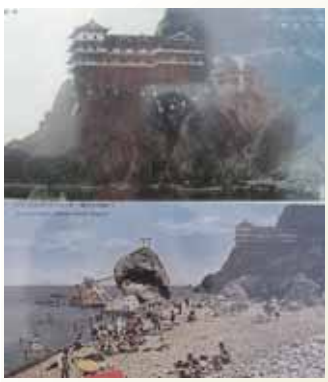
オタモイ遊園地というと龍宮閣のイメージが強いことと思いますが、実は一番のメインは海水浴と、お地蔵さん参りでした。海水浴は大変な人気で、一日千人ほどの人が訪れたといわれるほどです。またオタモイは古くからオタモイ地蔵尊というお地蔵様がいる信仰の場所であり、かつては「信仰」と「遠出（観光）」は近い関係にあったため、オタモイに足を運ぶ大きなきっかけの一つになっていました。また龍宮閣のほかにも色々な施設があり、食堂、演芸場、相撲場、公園などがありました。遊園地に遊びに来たお客さんは、海水浴や舟遊びなどで海で遊び、おなかが減ったら食堂や料亭でご飯を食べ、疲れたら演芸場で一休みしたり、あるいはお風呂で汗を流したり…というふうにして、一日過ごせる場所でした。開園期間は5月5日から11月3日まで、冬季は閉園していました。つまり、オタモイ遊園地は「遊園地」とはいっても、現在主流のテーマパークとは異なるリゾート地（行楽地）として人気を集め、小樽外からも多くの人が訪れました。

このようにたくさんの施設を備えた遊園地を造るため、遊園地の施主（オーナー）であった加藤秋太郎は、周辺の土地と漁場をあわせて10万坪の面積を買い取ったといわれています。加藤秋太郎は小樽花園町ですし屋「蛇の目寿司」を経営していた人で、店が増え、大きくなるにしたがってすし以外の料理も提供するようになり、店名を「蛇の目」と改めました。加藤がオタモイに興味を持ったのは62歳の時です。小樽に観光客を呼び込むため、オタモイの景勝を活かして一大名所を作ろうと、私財を投じてこの遊園地を建設しました。ちなみに園内の建物や龍宮閣で使用していたお皿や半纏には、「蛇の目◎」のマークが入っています。これらの資料は博物館・運河館の常設展示でご覧いただけます。

オタモイ遊園地はたいへん流行りましたが、開園まもなく戦争がはじまり局面が激化するに従い、行楽や贅沢を自重する風潮が強まり、客足が遠のき、徐々に閉園状態になりました。また、この閉園中にいくつかの施設が土砂崩れや雪の影響で倒壊などの被害を受けました。このころ、最初のオーナーの加藤は経営を別の人に手放し、故郷の名古屋へ引き上げます。

終戦後営業を再開し、再び多くの客が訪れましたが、戦前の賑わいを取り戻すことはできませんでした。そんな中、昭和27年に龍宮閣が火事で焼失すると、客足はさらに減り、しだいに遊園地そのものが閉園することとなりました。その後何度か再建運動が持ち上がるのですが、いずれも完成しないまま終わってしまいました。

数ある施設の中でも、唯一残った大衆食堂の「弁天閣（弁天食堂）」は昭和40年ごろまで営業をつづけていましたが、老朽化した危険家屋ということで、昭和53年解体されました。現在は移設された唐門が残るのみとなっています。



オタモイ遊園地が総ての施設がそろった完全な状態で営業していたのは、開園間もない2、3年の間しかありません。そのころ（戦前の）写真や映像はとても貴重です。

今回寄贈を受けた資料は、昭和11～12年に8ミリフィルムで撮影された映像です。当時札幌に在住されていた菱昌七氏がオタモイ遊園地を訪れた際に撮影したもので、園内の主要な施設を回る一家の足取りは、残されたパンフレットにそのままなぞらえることが出来ます。家族旅行の記録ではありますが、戦前のオタモイ遊園地を撮影した貴重な映像です。

今回の資料で特筆すべきなのは、質（画像）と量（撮影時間）が大変優れていることです。今回の資料の撮影時間は10分47秒、画像も鮮明です。博物館ではオタモイ遊園地関係のフィルムをいくつか所蔵していますが、一つ一つの撮影時間は数分から数十秒ほどで、すべてを合わせても6分ほどにしかなりません。また、古いものなので仕方のないことですが、保存状態の関係で不鮮明なものも少なくありません。ですから10分を超える長さの鮮明な画像のフィルムは、きわめて貴重なものなのです。

さらに、従来の資料では一部しか判明できなかった様々な事柄が明らかにされました。

子供向けの遊具をそろえた広場「児童遊園」の遊具の具体例、白蛇弁天堂の開園当時の様子、そして今まで懸命に調査しながら未発見であった龍宮閣内部の映像が、数秒ですが発見できました。

オタモイ遊園地は小樽の一大名所でありながら事実上の開園期間が短く、限られた資料しか残されていないため、この資料は今後の研究を進めるうえで重要な資料といえます。